平成 30 年度

海 外 研 修 事 業

平成 31 年 2 月

公益財団法人 中央競馬馬主社会福祉財団

目　　次

Ⅰ．　平成 30 年度海外研修事業実施概況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P.1

(1)　第 46 回生 海外研修の実施概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P.2
(2)　第 46 回生 個別研修プログラム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P.3～7
(3)　第 46 回生による海外研修報告会の実施 ・・・・・・・・・・・・・・・　P.8～9
(4)　海外研修報告会出席者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P.10

Ⅱ．　資料編（昭和 45 年～平成 30 年）

(1)　海外研修 合同研修・個別研修実施実績・・・・・・・・・・・・・・・・・　P.12～13
(2)　海外研修 個別研修訪問国実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P.14～15
(3)　海外研修生 所属施設種類別・職種別人員実績・・・・・・・・・・　P.16
(4)　海外研修生 県別人員数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P.17

【平成30年度海外研修事業実施概況】

諸外国の施設における実習を通じて専門的な知識・技能を習得し、我が国の社会福祉サービスの向上に資することを志向する民間社会福祉施設等の直接処遇職員を募集（H30.5.1～7.31）、選考審査（応募書類、面接）を経て選抜、デンマークにおける5日間の合同研修修了後、約2か月間に及ぶ個別研修を実施。

・海外研修応募書類
①応募調書
②履歴書
③研修テーマ
④所属施設長の推薦書
⑤英検･TOEIC等の成績証明書の保持者はその写し
⑥施設のパンフレット

・受講者資格
①民間社会福祉施設等に勤務する直接処遇職員
②27歳以上45歳以下の者
③社会福祉施設における業務経験が通算5年以上及び引続き福祉業務を続ける意欲のある者
④日常的英会話能力を有する者

(1) 第46回生 海外研修の実施概要

1．合同研修期間：平成30年4月23日（月）～ 4月27日（金）

・合同研修の実施委託先である、デンマーク ノーフュンスホイスコーレ 短期研修部にて、4月23日から4月27日の5日間合同研修を実施、合同研修修了後、4月29日から個別研修をスタート

2．研修生（3名）

①水野 里佳（大阪府　在職年数：20年）

所属・職種　：社会福祉法人愛徳福祉会 児童発達支援センターふたば
保育士

研修テーマ：療育における保護者支援を考える
－各国の障害児支援に関わる対人援助職の役割とは－

個別研修期間：平成30年4月29日～平成30年6月24日

個別研修国　：アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド

②田川　雄一（和歌山県　在職年数：17年）

所属・職種　：社会福祉法人守皓会 特別養護老人ホーム ありだ橘苑
生活指導員

研修テーマ：人材教育　－わが国の未来のために－

個別研修期間：平成30年4月29日～平成30年6月3日

個別研修国　：スウェーデン、アメリカ、カナダ

③加藤　奈津子（愛知県　在職年数：10年）

所属・職種　：社会福祉法人瑞祥 特別養護老人ホーム ビラ・オレンジ
管理栄養士・介護支援専門員

研修テーマ：社会福祉施設の地域における位置付けと役割・
社会福祉施設における食のサポート、支援方法

個別研修期間：平成30年4月29日～平成30年6月18日

個別研修国　：ドイツ、スウェーデン、アメリカ

(2) 第45回生 個別研修プログラム(概要)

氏名	水野　里佳
所属	社会福祉法人 愛徳福祉会　大阪発達総合療育センター　児童発達支援センターふたば 保育士
合同研修	デンマーク ノーフュンスホイスコーレ　(4/23～4/27)

	国	期間	施設名/都市名	施設の種類	研修内容	研修成果と施設への活用・導入方法等
5月	アメリカ	4/28～5/16	John Muir Elementary School YCC (Young Children's Center)/サンノゼ	公立小学校内の就学前の障害児通園センター	①具体的な指導・支援の方法を学ぶ（多職種連携も含めて）　②障害児のアセスメント～評価支援計画等について学ぶ　③ABAセラピーについて学ぶ　④プログラム運営について　⑤保護者支援について学ぶ	知り得た活動、教材等はすぐに保育実践に取り入れている。ABAセラピーの手法として、自分がした行いに対して、即時性のフィードバックが得られるという点は子どもに分かりやすいと感じた。ABAセラピーでなくとも、分かりやすく、一貫した支援は子どもにとって有効である。支援の方向性を職員全体で考えるようになった。
			Joaquin Miller Middle School/サンノゼ	公立中学校特別支援学級	①具体的な指導・支援の方法を学ぶ（多職種連携も含めて）　②中学校から高校への移行に際しての本人支援と保護者支援について学ぶ　③プログラム運営について学ぶ	幼児から児童～学生への移行に関して考える研修となった。養護の時代から教育へと切り替わる場では「自立」ということがキーワードになってくる。生きていく上で必要なスキル（Living Skill)について、子どもの発達を支える職としては頭において日々の活動を考えるようになった。
			PHP (Parents Helping Parents)/サンノゼ	障害児を育てる親の支援団体	ワークショップの参加を通して①PHPの活動概要を学ぶ　②IEP（個別指導計画）について学ぶ　③親同士のつながり、どのような交流会等があるのかを学ぶ	教育法を後ろ盾にIEPの成り立ちがよく理解できた。子どもの支援を考える際にはその子どもに関わる大人がそれぞれの役割、責任を持って支援にあたることが必要である。アメリカにおいてはボランティアの力がとても偉大であり、開かれたコミュニティーを形成している。施設においても積極的なボランティアの活用を考えている。
			San Jose State University/サンノゼ	サンノゼ州立大学 特別支援教育学科	①学科の概要について聞き取りどのような学生がこの学科で学んでいるのか②カリフォルニア州の教育制度および障害児教育に関するアセスメントや評価、支援に繋ぐまで等の聞き取り	障害児保育・教育は日本でもどうなっていくのか。制度と共にそれに携わる人材の教育も必要だと感じた。「正しく教育を行う人、教育を変えていける人を育てたい。」という教授の言葉。新人職員や実習生等、これから共に保育・教育を担っていく人材に対してどう向き合うべきかを考えさせられるものであった。
		5/17～5/20	Montessori International school/アーバイン	モンテッソリー国際学園	①主体性を育むモンテッソリー教育について学ぶ　②在籍する障害児への支援、保護者支援について聞き取り　③自閉症児のミュージカル劇団等、園長先生のこれまでの取り組みや今後の展望等の聞き取り	在籍する障害児への支援とその兄弟・姉妹への支援について語られていた。施設において、その辺りの支援は薄かったと考えさせられる研修であった。現在、兄弟・姉妹等、家族の誰もが参加できる保育を企画し、実践している。
			Developmental Therapy Center/アーバイン	セラピーセンター	セラピーを見学を通して、具体的なセラピーの目的や内容について学ぶ	全ての活動が生活に根ざした取り組みであった。衣服を着替える必要性がある場面での着脱の練習、ナイフとフォークを使う必要性がある場面での食事の練習など、何のためにその取り組みを行うのか、子どもにとって理解しやすい環境での活動を考えるように意識できるようになった。
			Culver District Special Education Pre School/ロサンゼルス	インクルージョンシステムを導入した幼稚園	①インクルージョンシステムを導入した幼稚園のプログラム運営について学ぶ　②具体的な指導・支援の方法を学ぶ（多職種連携も含めて）	他職種で様々な視点を持って子どもに分かりやすい保育環境を設定しているという。全ての子どもには課題がある。それを乗り越えるために、保育環境の設定がいかに大事であるかを常に考えるようになった。子ども達がお互いに助け合う姿を見て、今後も地域保育所との交流保育を活発に行う。
	カナダ	5/21～5/25	Region of Peel /オンタリオ	Peel地区市役所福祉課	①オンタリオにおける障害児支援の概要について学ぶ　②リソースコンサルタント（RC)の仕事について学ぶ　③アセスメントや評価、支援に繋ぐまで等の聞き取り	RCは定期的に家庭や学校へ巡回を行う。何か問題があった時に対処するだけではなく、普段から子ども、保護者、関係者との関係作りを行う。そのことが支援計画によく活かされると感じた。そして、支援開始に至るまでは役割分担のもと、一連の手続きが行われる。現在、職員間で手続きや認識等の統一を話し合っている最中である。
			Peel Children's Center/オンタリオ	メンタルヘルスに関する支援センター	施設の概要、支援内容等についての聞き取り	子どもに困り事があった場合、障害別の親の会、若年の保護者の会など、様々な社会資源が用意されている。情報が素早く保護者に届くように、ソーシャルワーカーと協力をしていきたいと考えている。中でも父親にも参加してもらえる夜間のワーショップも開催されており、施設でも父親が参加できるものを計画したいと考えている。

	国	期間	施設名/都市名	施設の種類	研修内容	研修成果と施設への活用・導入方法等
5月	カナダ	5/21 ～ 5/25	Peel Infant-Parent Program / オンタリオ	0-3歳までの障害を持つ子どもと親の療育センター	施設の概要、支援内容等についての聞き取り	子どもの成長や発達を丁寧に保護者へ伝え、共に子どもの育ちを支える手段として、ポートフォリオ（成長記録）の作成を計画中である。また、親と子の気質テストは親と子であってもそれぞれ違う人間であるということを理解するツールとして使用されていた。子ども理解の一つのツールとして使用できないかと考えている。
			Silver Creek Pre-School/ オンタリオ	障害を持つ子どものプリスクール	①施設の概要について聞き取り　②クラスの運営及び具体的な指導・支援の方法を学ぶ　③多職種との連携、それぞれの役割について学ぶ ④保護者支援について学ぶ	保育士、セラピストは協働をしながら現場で子どもの姿を捉え、評価する。ここでは心理士も常駐し、客観的な子どもの評価、また、保護者の相談にいつでも乗れる体制をとっている。現場から離れた立場や視点でのアドバイス等もあって良いと考え、施設でも心理士がファシリテーターとなる保護者座談会をシリーズで開催予定である。
			Erinoakkids/ オンタリオ	障害を持つ子どもの医療・療育・セラピー等の複合施設	施設の概要、支援内容等についての聞き取り	子どものベッドサイドには壁掛けスライド式の絵画の中に医療機器が目につかないように設置されていた。幼少から様々な治療を受けてきた子どもにとって、精神的にも苦痛を味わうことのない配慮がされている。普段何気なく保育室内にもある医療機器に関して、子どもの目にどう映るのかということに気を配り環境を整えていく。
	オーストラリア	5/27 ～ 6/3	Victoria State Education and Trainin/ メルボルン	ヴィクトリア政府 教育省	ヴィクトリア州の障害児教育の制度の変遷、現在のインクルーシブ教育の取り組みと現状を学ぶ	インクルーシブ教育は浸透しつつあるが、地域の学校レベルで障害児の受け入れの仕方違ってくるという点は日本と似た部分もある。まずは大阪のインクルーシブ教育の実態に関心を持つようになった。「インクルーシブ教育」をテーマに保護者座談会の開催に向けて、現在、学校教育関係の方と日程調整中である。
6月			Port Phillip Special School/ メルボルン	5-18歳までの特別支援学校	①オリジナルカリキュラムの内容について学ぶ（専門職がどう協働しているか）　②成人期への移行に際しての本人支援と保護者支援について学ぶ	様々な専門職がプログラムに関わり、ユニークな取り組みを見ることができた。従来の考えにとらわれることなく、様々な職種が子どもの支援に関わることでお互いに意識や技能を高められる。現在、施設の他部署に在籍する様々な技術（絵画・生け花・音楽・料理など）を持つ職員とのコラボレーション保育を計画中である。
	ニュージーランド	6/4 ～ 6/24	Kimi Ora School/ ウエリントン	5-21歳までの特別支援学校	①具体的な指導・支援の方法を学ぶ（多職種連携も含めて）　②障害児のアセスメントや評価、支援計画等について学ぶ　③日本の制度や支援の違いについての意見交換 ④プログラム運営について学ぶ　⑤保護者支援について学ぶ	クラス集団の中での個別の目標を職員がどう意識を持って達成させていくか。戸外活動ではコミュニティーに出向き、生活の中でのスキルアップを意識した取り組みも多く参考になっている。また、ネットでの学校情報の公開は保護者にとって利便性もあり良いと感じた。今後、施設でも取り入れられないか慎重に考えていく。
			University of Otago/ ダニーデン	オタゴ大学/体育学部、教育学部	①運動発達クリニックの概要について学ぶ　②運動機能に障害を持つ子どもへの支援、保護者への支援について学生との意見交換　③教育学部では障害児教育の制度やインクルーシブ教育の現状についての聞き取り	信頼関係を築き、練習を繰り返し、達成感や自己肯定感を高めていく。とても根気のいる支援である。練習したことを家庭にどう返していくかという点はよく似た課題でありどう解決していくか。大学という機関であり、様々な視点からの研究も進められており、興味深い。海外の保育・教育に関する論文にも興味を持つようになった。
			Otagao University Childcare Association/ ダニーデン	オタゴ大学内デイケア施設	①施設の概要について聞き取り②カリキュラム及び具体的な指導・支援の方法を学ぶ　③保護者支援について学ぶ ④早期介入専門家の先生との意見交換	園で気になる子どもがいた場合、保護者にどう伝えていくか。早期介入専門家が入り問題を解決していく。子どもに障害があっても通常の園で他児と共に育つことは大事。その子だけを支援するという捉えではなく、その子も踏まえた全体の子どもを支援していく、個別的でも分け隔てもない視点を持つことは必要であると感じた。
			Early Childhood on Stafford/ ダニーデン	ダニーデン市内デイケア施設	①施設の概要について聞き取り　②カリキュラム及び具体的な指導・支援の方法を学ぶ ③保護者支援について学ぶ　④障害児の受け入れ等についての聞き取り	Te Wharikiのカリキュラムの原則や要素は保育活動の内容を考える際の一つのアイデアとして参考になっている。乳幼児期の子どもの保護者支援に関して、この時期に大切なことは「保護者の思いに寄り添うこと。」それは全世界共通なのだ。そのことを今後も大事にし、支援を行う。
計 65日			訪問国5カ国　訪問施設18箇所			

氏名	田川　雄一					
所属	社会福祉法人 守皓会　特別養護老人ホームありだ橘苑　生活相談員					
合同研修	デンマーク ノーフェンスホイスコーレ　(4/23～4/27)					
	国	期間	施設名/都市名	施設の種類	研修内容	研修成果と施設への活用・導入方法等
4月 5月 6月	スウェーデン	4/28 ～ 5/11	Lojtnantsgarden/ Stockholm	高齢者ケア施設（55室のうち27室が認知症高齢者）	高齢者施設の概要とユニット運営について学び、日常のケアの実際（モーニングケア、イブニングケアなど1日を通した研修）、人材管理や育成方法について学ぶ。	ユニットの構成や人員配置を参考にすることが出来た。 日本のような形式的な会議や申し送り、勉強会がなく、コミュニケーションを通して人材育成が行われているように感じた。自施設で導入できるプロジェクトを考える良いきっかけとなる。
	アメリカ	5/12 ～ 5/25	STONESTOWN FAMILY YMCA-ANNEX/ San Francisco	コミュニティ施設	カリフォルニア州の福祉の実態を学び、低所得者のためのコミュニティ施設内を視察する。	北欧とアメリカの福祉システムのギャップを大いに学ぶことが出来た。 低所得者に対しての施設の役割や自己責任の国で生きていくための厳しさを学び、福祉を考える上で非常に参考になる。
			Self-Help for the Elderly Jackie Chan Center/ San Francisco	デイケア	アメリカに住む移民の多くが利用するデイケアを視察する。人材管理や職場環境の工夫について学ぶ。	中国系のデイケアを訪問し、組織体制や人事管理について学ぶことが出来た。 ケアの内容は日本とそれほど差はないことが分かった。職場環境や職員を採用する上での留意点を参考にすることが出来た。
			RHODA GOLDMAN PLAZA/ San Francisco	高齢者専用住宅	主に富裕層が利用する高齢者住宅を見学し、その実態を学ぶ。	格差の大きい社会の中で高級感溢れる高齢者住宅の実態を学ぶことが出来た。 格差社会についても考えさせられるよい機会となる。
			LAGUNA HONDA HOSPITAL AND REHABILITAION CENTER/ San Francisco	リハビリセンター	低所得者のためのリハビリ病院の実態とサービス内容について学ぶ。	日本の老人保健施設のような役割であることを学んだ。 リハビリ内容は、日本でも参考に出来るものを得ることができた。
	カナダ	5/26 ～ 6/3	NIMI NIKKEI HOME/ Burnaby	アシステットリビング（介護付き高齢者住宅）	カナダの福祉システムと国営である日系ホームの実態やボランティアについて学ぶ。また、ケア内容や地域に密着した活動などを学ぶ。	ボランティアの位置づけや協力内容について非常に参考となる。 日本でもボランティアの受入れを積極的に進めていく必要があると感じた。
計43日			訪問国 3カ国　　訪問施設　6カ所			

氏名	加藤　奈津子					
所属	社会福祉法人 瑞祥　特別養護老人ホーム ビラ・オレンジ　管理栄養士・介護支援専門員					
合同研修	デンマーク ノーフュンスホイスコーレ　(4/23～4/27)					
	国	期間	施設名/都市名	施設の種類	研修内容	研修成果と施設への活用・導入方法等
4月 5月	ドイツ	4/28 ～ 5/19	Senioren-und-Therapiezentrum Halstenbek/ ハンブルク	要介護高齢者のための施設	Betreuungskraft（心理的社会的ケアを行う介護職員の一種）の仕事を通して利用者の食生活における支援方法を学ぶ。 栄養補給が困難な方や医療依存度の高い方への食事支援方法の実態を知る。	介護職員の分類、心理的社会的ケアを行う専門職がいる実態とメリットを伝える。Betreuungskraftが行っている精神的な緩和につながる時間（食生活においては買い物や外食支援等）を本人主体として確保できないか検討する。飲み物を自由に選択、摂取できる環境を整える。体重測定の頻度、管理方法を見直す。
	スウェーデン	5/20 ～ 5/26	Mälarbacken/ ストックホルム	高齢者施設（地方自治体運営）	地方自治体運営の高齢者施設と管理栄養士の関わり方の実態を知る。 食欲向上のための食事支援の方法について学ぶ。 スウェーデンの食文化であるフィーカについて知る。	フィーカとは何か、栄養補給において担っている役割について説明する。間食について考え直し、おやつ以外の間食についての導入を考える。食事現場に出向くことの重要性を栄養士間で再認識し、入所者の栄養改善に取り組んでいく。
			Björksätra vård-och omsorgsboende/ ストックホルム	高齢者施設（プライベート運営）	プライベート運営の高齢者施設と管理栄養士の関わり方の実態を知る。 地方自治体運営との違いから、食事支援方法を学ぶ。	ユニットタイプにおいて、介護職員が入所者に量はどのくらいがよいか尋ねながら盛り付けることで、視覚的にも嗅覚も刺激し、食欲増進へとつなげることができるよう取り組んでいく。食物繊維の補給方法について検討する。
			Ersta Hannahemmet/ ストックホルム	高齢者施設（非営利団体運営）	スウェーデンとフィンランド両文化をどのように重んじているか、その方法を学ぶ。 管理栄養士の関わり方と食事への介入方法の実態を知る。	日本の伝統や歴史だけでなく、入所者の生まれ育った地域や出身地の伝統について調べたり、本人に話を聞き、行事に取り入れたり、介護方法を検討する。伝統料理を取り入れた栄養教室を開催し、昔を懐かしんでいただく機会を設ける。
			Oxbackens servicehu/ ヴェステロース	高齢者施設（地方自治体運営）	地方自治体運営の高齢者施設と管理栄養士の関わり方の実態を知る。 食事環境を変え、高齢者の食に対する関心を高めるためのプロジェクト「SMAK」の活動内容と成果について学ぶ。 厨房スタッフと介護スタッフの令閨による食事提供方法について、その方法と改善点を知る。	行事として開催している喫茶店に地域住民の参加を検討し、入所者と交流する機会を設ける。また、施設入所者の様子や施設の取り組みを知っていただく。人は60～70%見た目で食べているという事実と、食事環境を整えることの大切さを職員に周知する。また、テーブルセッティングや配膳の方法を検討し、食欲増進へとつなげる。厨房スタッフが直接現場に出向いて盛り付け、配膳をする機会を作ることを検討し、介護スタッフと交流できる場を設ける。
			Fatburens äldreboend/ ヴェステロース	高齢者施設（地方自治体運営）		
			Vallby servicehus/ ヴェステロース	高齢者施設（地方自治体運営）		
	アメリカ	5/27 ～ 6/18	Elite Care Oatfield Assisted living -Adam's House-/ ポートランド	長期介護施設	新鮮な食材を愛情を込めて一から調理することを大切にしており、高齢者の食事支援について重要視していることや問題点等を意見交換する。 ご家族を招待して開催するイベントの実際について知る。	調理員の視点から作ってみたいメニューや使ってみたい食材、調理方法等の情報を仕入れ、献立への導入を検討する。日本の行事に関連した食に関するイベントの開催時、家族や地域住民を招くことを検討する。手作りの料理で、入所者、家族、職員ともに楽しむことができるよう工夫していく。
			Meals on Wheels PEOPLE/ ポートランド	食事デリバリーサービス	地域に暮らす高齢者に対する食事支援をどのように行っているか、また、管理栄養士の関わり方の実態を知る。 利用者からの意見をどのように反映させているのか学ぶ。	施設入所者のために作成している献立、食事を地域住民の方にも提供できる場を検討する。厨房スタッフが知りたいと思っていることを食事アンケートの内容に取り入れ、結果をフィードバックする。
			Hopewell House/ ポートランド	ホスピス	ターミナル期の患者（吐き気や痛み等で食欲が減退している方）ひとりひとりにあわせた食事提供の方法と重要視している点を学ぶ。 家族とどのように向き合い、支援方法を決定しているのか、その実際を知る。	「食べたいものは何か」という情報を全職種で収集する。家族の協力を得て、食べたいと思ったときにすぐに提供できる環境を整える。「これがこの方にとって最期の食事になるかもしれない」という認識を持って接する。ターミナル期の心のケアについて、家族だけでなく職員に対しても行える機会を設けていく。

	国	期間	施設名/都市名	施設の種類	研修内容	研修成果と施設への活用・導入方法等
6月	アメリカ	5/27～6/18	Marquis Vermont Hills/ポートランド	長期介護施設	長期介護施設における食事提供のシステムと実態、管理栄養士の関わりについて知る。食事摂取量や体重管理等、入所者の栄養管理方法について知る。	厨房スタッフが直接現場に出向いて盛り付け、配膳をする機会を作ることを検討し、介護スタッフと交流できる場を設ける。盛り付け量を職員間で分かりやすく統一できるようサービング器具の統一化を図る。食事摂取量や体重の記録や管理方法について見直す。ペースト食の盛り付け方法について検討する。
			Holgate Center (Friendship Health Center) /ポートランド	要介護が高い方達の介護施設	要介護が高い方に対する食事提供や調理法で工夫している点について知る。 要介護が高い方を受け入れている施設であり、経管栄養者の受け入れと実態を知る。	きざみ食やペースト食の調理法や盛り付け方について見直す。視覚や嗅覚から食欲を刺激することができるよう、厨房内調理にとどまらず、調理できる機会を増やす（料理教室の開催頻度を増やす、介護職員が仕上げの調理をおこなう等）。
			梅野木庭園老人ホーム/ユニオンシティー	日系老人ホーム	日米両文化を重視したサポート方法や地域との関わりを学ぶ。 両文化を取り入れた食事の提供をどのように行っているか、その実態を知る。	メニューの張り出しだけでなく、口頭での紹介をしていく（内容と味わってほしい点、工夫した点等）。実習生の受け入れ体制と、受け入れ時の実習内容について見直し、互いにメリットのある内容にしていく。
計 57日			訪問国 4カ国　訪問施設 13カ所			

(3) 第46回生による海外研修報告会の実施

1．開催日時：平成30年10月27日(土)　13：00～17：00

2．場　　所：JRA新橋分館

3．報 告 者：46回生（平成30年度）の研修生3名

4．来　　賓：厚生労働省 社会・援護局 社会福祉専門官 添田 正揮 氏

5．研修報告

① １３：２０～１４：００　水野 里佳
（含む質疑応答）　社会福祉法人 愛徳福祉会
児童発達支援センターふたば 保育士

② １４：０５～１４：４５　田川 雄一
社会福祉法人 守皓会
特別養護老人ホームありだ橘苑 生活指導員

≪ 休憩 １０分 ≫

③ １４：５５～１５：３５　加藤 奈津子
社会福祉法人 瑞祥
特別養護老人ホーム ビラ・オレンジ
管理栄養士・介護支援専門員

≪全般についての質疑応答　１０分 ≫

【特別講演】１６：００～１７：００

厚生労働省 社会・援護局 社会福祉専門官　添田 正揮 氏

「地域共生社会の実現に向けて」
～生活困窮者自立支援制度の見直しと
包括的支援体制の構築に向けた施策～

６．研修報告者の研修概要

① 水野　里佳（保育士）

研修テーマ：療育における保護者支援を考える
－各国の障害児支援に関わる対人援助職の役割とは－

個別研修期間：平成 30 年 4 月 29 日～平成 30 年 6 月 24 日

個別研修国　：アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド

② 田川　雄一（生活指導委員）

研修テーマ：人材教育　－わが国の未来のために－

個別研修期間：平成 30 年 4 月 29 日～平成 30 年 6 月 3 日

個別研修国　：スウェーデン、アメリカ、カナダ

③ 加藤　奈津子（管理栄養士・介護支援専門員）

研修テーマ：社会福祉施設の地域における位置付けと役割・
社会福祉施設における食の支援方法

個別研修期間：平成 30 年 4 月 29 日～平成 29 年 6 月 18 日

個別研修国　：ドイツ、スウェーデン、アメリカ

(4) 海外研修報告会出席者

ご来賓	厚生労働省 添田　正揮	厚生労働省 社会・援護局 社会福祉専門官（特別講師）

研修報告者-1	46回研修生 水野　里佳	（福）愛徳福祉会 児童発達支援センターふたば 保育士	大阪府
研修報告者-2	46回研修生 田川　雄一	（福）守皓会 特別養護老人ホームありだ橘苑 生活相談員	和歌山県
研修報告者-3	46回研修生 加藤　奈津子	（福）瑞祥 特別養護老人ホーム ビラ・オレンジ 管理栄養士・介護支援専門員	愛知県

聴　講　者	所　　属		研修回	年度
柏木　美和子		東京都	5	S49
酒井　久江		東京都	7	S51
荒巻　操		東京都	9	S53
末光　茂	(福)旭川荘 理事長	岡山県	10	S54
鈴木　裕子	(福)至誠学舎立川至誠ホーム　至誠しばさき	東京都	23	H5
樽井　康彦	龍谷大学 社会学部 現代福祉学科准教授	大阪府	31	H14
亀田　司	ＮＰＯ法人「木ここち」理事長	富山県	31	H14
鈴木　栄美子	(福)東京光の家 光の家新生園 生活支援員	東京都	38	H22
谷口　博己	(福)みその 児童養護施設聖園子供の家 副施設長	神奈川県	39	H23
佐藤　治美	(福)基督教児童福祉会バット博士記念ホーム 副園長	東京都	39	H23
小島　愛子	ＮＰＯ法人 ピスカリ 理学療法士	北海道	39	H23
磯部　伸之	(福)アトリエ 理事長	神奈川県	42	H26
武智　薫	(医療法人)ふらて会 老人介護保健施設やすらぎ 理学療法士	福岡県	43	H27
嶋倉　春菜	(福)東京光の家 光の家新生園 生活支援員	東京都	43	H27
正木　陽子	(福) 神戸真生塾児童養護施設神戸真生塾　生活指導員	兵庫県	44	H28
比嘉　寿	(公社) 沖縄県精神保健福祉会連合会 ワークプラザユニティサービス管理責任者	沖縄県	44	H28
佐藤　真紀子	(社会医療法人) 将道会 南東北相談支援センター 介護支援専門員	宮城県	45	H29
小玉　武志	(福)恩賜財団済生会支部北海道済生会西小樽病院 みどりの里　機能訓練室係長・作業療法士	北海道	45	H29
川邉　真歩	ＮＰＯ法人 ピスカリ 作業療法士	北海道		
小蒲　京子	本年度デンマークでの合同研修参加者(理学療法士)	千葉県		

事 務 局	畑山　光伸	(公財) 中央競馬馬主社会福祉財団	理事長
	西川　浩明	〃	専務理事
	今田　敦夫	〃	事務局長
	萩原美代子	〃	企画・管理部

Ⅱ．海外研修 資料編

(1) 海外研修 合同研修・個別研修実施実績 (昭和45年～平成30年)

年 度	(回 数)	研修生(人)	合同研修 日 程	合同研修 研修地	研修期間(合同研修含)	個別研修期間
昭和45年	(第 1 回)	11	(合同研修は無)		3ケ月	2/10～5/15
昭和46年	(第 2 回)	15	(合同研修は無)		↓	1/3～3/31
昭和47年	(第 3 回)	17	4/14 ～ 5/5	デンマーク	↓	5/6～8/18
昭和48年	(第 4 回)	11	3/30 ～ 4/21	デンマーク	↓	4/22～6/18
			4/30 ～ 5/7	イギリス	↓	5/8～6/27
昭和49年	(第 5 回)	13	3/29 ～ 4/11	イギリス	↓	4/12～7/17
			4/22 ～ 5/3	オランダ	↓	5/4～7/17
昭和50年	(第 6 回)	8	4/11 ～ 4/25	オランダ	↓	4/26～8/31
昭和51年	(第 7 回)	7	4/24 ～ 5/7	アメリカ	↓	5/8～7/16
昭和52年	(第 8 回)	8	4/16 ～ 4/30	アメリカ	↓	5/1～7/23
昭和53年	(第 9 回)	7	4/1 ～ 4/15	デンマーク	↓	4/15～7/10
昭和54年	(第 10 回)	10	4/20 ～ 5/4	デンマーク	↓	5/5～8/20
昭和55年	(第 11 回)	5	4/12 ～ 4/26	アメリカ	↓	4/27～8/6
昭和56年	(第 12 回)	7	4/25 ～ 5/8	アメリカ	↓	5/9～8/25
昭和57年	(第 13 回)	6	4/17 ～ 4/30	デンマーク	↓	5/1～7/31
昭和58年	(第 14 回)	8	4/16 ～ 4/29	デンマーク	↓	4/30～8/1
昭和59年	(第 15 回)	11	4/28 ～ 5/11	アメリカ	↓	5/12～8/19
昭和60年	(第 16 回)	6	4/13 ～ 4/26	アメリカ	↓	4/27～8/4
昭和61年	(第 17 回)	6	4/5 ～ 4/18	デンマーク	↓	4/19～8/20
昭和62年	(第 18 回)	7	4/25 ～ 5/8	デンマーク	↓	5/9～8/21
昭和63年	(第 19 回)	8	4/9 ～ 4/22	アメリカ	↓	4/22～8/31
平成元年	(第 20 回)	8	4/8 ～ 4/21	アメリカ	↓	4/22～8/4
平成 2年	(第 21 回)	11	4/28 ～ 5/4	デンマーク	↓	5/5～8/31
平成 3年		中止 (湾岸戦争のため)				
平成 4年	(第 22 回)	9	4/25 ～ 5/8	デンマーク	↓	5/9～8/30
平成 5年	(第 23 回)	9	4/3 ～ 4/16	アメリカ	↓	4/17～8/28
平成 6年	(第 24 回)	5	4/9 ～ 4/22	アメリカ	↓	4/23～7/26
平成 7年		中止 (制度再検討のため)				

年 度	（回 数）	研修生（人）	合同研修 日 程	合同研修 研修地	研修期間（合同研修含）	個別研修期間
平成 8年	（ 第 25 回 ）	5	4/12 ～ 4/26	デンマーク	2～4ケ月以内	4/27～8/24
平成 9年	（ 第 26 回 ）	5	4/4 ～ 4/18	デンマーク	↓	4/19～7/26
平成10年	（ 第 27 回 ）	7	4/11 ～ 4/24	ア メ リ カ		4/25～8/10
平成11年	（ 第 28 回 ）	6	4/9 ～ 4/23	ア メ リ カ		4/24～8/8
平成12年	（ 第 29 回 ）	8	4/1 ～ 4/14	デンマーク		4/15～7/31
平成13年	（ 第 30 回 ）	6	4/21 ～ 5/4	デンマーク		5/4～8/20
平成14年	（ 第 31 回 ）	6	4/12 ～ 4/26	ア メ リ カ		4/27～8/11
平成15年		中止（イラク戦争のため）				
平成16年	（ 第 32 回 ）	6	4/9 ～ 4/23	ア メ リ カ	↓	4/24～8/8
平成17年	（ 第 33 回 ）	5	4/10 ～ 4/21	デンマーク		4/22～7/8
平成18年	（ 第 34 回 ）	5	4/17 ～ 4/27	デンマーク		4/28～7/16
平成19年	（ 第 35 回 ）	5	4/10 ～ 4/19	ア メ リ カ		4/20～7/9
平成20年	（ 第 36 回 ）	5	4/8 ～ 4/18	ア メ リ カ		4/19～7/9
平成21年	（ 第 37 回 ）	5	4/19 ～ 4/28	デンマーク		4/29～7/17
平成22年	（ 第 38 回 ）	5	4/27 ～ 5/2	デンマーク		5/3～7/18
平成23年	（ 第 39 回 ）	4	4/12 ～ 4/21	ア メ リ カ	2～3ケ月以内	4/22～7/10
平成24年	（ 第 40 回 ）	4	4/9 ～ 4/13	ア メ リ カ	3週間以上 2ケ月以内	4/14～6/11
平成25年	（ 第 41 回 ）	4	4/15 ～ 4/19	デンマーク		4/20～6/14
平成26年	（ 第 42 回 ）	4	4/22 ～ 4/25	デンマーク		4/26～7/13
平成27年	（ 第 43 回 ）	4	4/6 ～ 4/10	ア メ リ カ		4/11～6/6
平成28年	（ 第 44 回 ）	2	4/11 ～ 4/15	ア メ リ カ		4/16～6/10
平成29年	（ 第 45 回 ）	2	4/24 ～ 4/28	デンマーク		4/29～6/24
平成30年	（ 第 46 回 ）	3	4/23 ～ 4/27	デンマーク		4/28～6/24
計 319 人						

(2) 海外研修 個別研修訪問国実績 （昭和45年～平成30年）

区分	アメリカ	カナダ	イギリス	フランス	西ドイツ（ドイツ）	スイス	オーストリア	イタリア	スペイン	オランダ	ベルギー	デンマーク	スウェーデン	ノルウェー	フィンランド	アイルランド	ポーランド	ハンガリー	ユーゴスラビア	ポルトガル	ブルガリア	オーストラリア	ニュージーランド	インド	タイ	スリランカ	マレーシア	インドネシア	ケニア	スロベニア	メキシコ	ロシア	韓国	延人員	実人員
昭和45年 第1回	5	0	4		2	2						3	3		2																			21	11
昭和46年 第2回	8	0	5	1	7			1		4		4	4		2																			36	15
昭和47年 第3回	7	1	15	6	12	6	3	4		9	1	15	8	3	1					1				2	1									95	17
昭和48年 第4回	7	0	7	3	6	5		2				5	3	1	2																			41	11
昭和49年 第5回	6	0	10	1	5	5	2			7	1	4	4	1	1																			47	13
昭和50年 第6回	6	2	7	2	1	2	1	2		8	1	6	2	1																				41	8
昭和51年 第7回	7	4	4		2	1		1	1	1		2		1																				24	7
昭和52年 第8回	8	2	5	1	3					1	1	4	1				1				1													28	8
昭和53年 第9回	3	1	4	1	2					1		2	2																					16	7
昭和54年 第10回	4	2	5		5	2	1			2		5	1									1												28	10
昭和55年 第11回	4	2	2	1	1	1							1		1																			13	5
昭和56年 第12回	7	2	3	1	3	2		1				3	2	1								1												26	7
昭和57年 第13回	3	1	3		3	2				1		1	1			1																		16	6
昭和58年 第14回	7	2	4	1	3	3		1		1		2	1	1								1												27	8
昭和59年 第15回	10	1	4	1	2					2		1	2																					23	11
昭和60年 第16回	6	0	2		1					1			2		1																			13	6
昭和61年 第17回	5	2	1		2	1	1			1		1			1			1																16	6
昭和62年 第18回	6	3	6	2	2	2		1	1	1		4	3	1	2																			34	7
昭和63年 第19回	7	3	2		2	1				2		2	4						1										1					25	8
平成元年 第20回	8	2	3	1		1						2	2																					19	8
平成 2年 第21回	6	3	1	1	3		1					6	3	1	1							1				1								28	11
平成 4年 第22回	7	2	6	1	2	1			1	1	1	5	4									1									1			33	9
平成 5年 第23回	6	2	6		1	2				3		5			2							1	1									1		30	9
平成 6年 第24回	4	0	2									2																						8	5
平成 8年 第25回	2	0	2	1	1	1				2		4	1	1																				15	5
平成 9年 第26回	3	0	3									2	2	1	1												1	1						14	5
平成10年 第27回	6	3	4									4	1																					18	7
平成11年 第28回	5	3	3	1								3	1	1																				17	6
平成12年 第29回	6	2	2		2	1				1		2	1								1		1	1										20	8
平成13年 第30回	2	1	3		1						1	1	3		1															1				14	6
平成14年 第31回	3	2	1	1	2						1	2	2									1												15	6
平成16年 第32回	5	1	3					1		1	1	3	2									1												18	6
平成17年 第33回	2	1	1		1							2	3										1											11	5
平成18年 第34回	2	0	2		1							4	2																					11	5

区分	アメリカ	カナダ	イギリス	フランス	西ドイツ（ドイツ）	スイス	オーストリア	イタリア	スペイン	オランダ	ベルギー	デンマーク	スウェーデン	ノルウェー	フィンランド	アイルランド	ポーランド	ハンガリー	ユーゴスラビア	ポルトガル	ブルガリア	オーストラリア	ニュージーランド	インド	タイ	スリランカ	マレーシア	インドネシア	ケニア	スロベニア	メキシコ	ロシア	韓国	延人員	実人員
平成19年 第35回	4		1							1		2										1												9	5
平成20年 第36回	5	1	1									3	2										1											13	5
平成21年 第37回	1	4	2		1							3	2		1																			14	5
平成22年 第38回	4	1			1			1				4	1		1																		1	14	5
平成23年 第39回	4	1	3							1		2	1										1											13	4
平成24年 第40回	3		1		1				1			3																					1	10	4
平成25年 第41回			2	1	2					1	1	2	3		1							1												14	4
平成26年 第42回	1	2				2	1					2			1							2	1											12	4
平成27年 第43回	3	1	2				1								2								1											10	4
平成28年 第44回	2	1	1					1				2										1												8	2
平成29年 第45回	2	2	1		1							2																						8	2
平成30年 第46回	3	2			1								2									1	1												3
合計	215	65	149	28	85	43	11	16	4	53	9	136	82	14	24	1	1	1	1	1	2	14	8	3	1	1	1	1	1	1	1	1	2	976	319

(3) 海外研修生 所属施設種類別・職種別人員実績（昭和45年～平成30年）

（施設種類別）

施設区分	研修生（人）
身体障害者更生施設	19
身体障害者療護施設	3
身体障害者授産施設	14
視覚障害者情報提供施設（点字図書館等）	11
知的障害者更生施設	24
知的障害者授産施設	10
知的障害者通勤寮	1
肢体不自由児施設（サリドマイド児施設）	31
重症心身障害児施設	23
知的障害児施設	27
児童養護施設（養護施設・虚弱児施設）	31
情緒障害児短期治療施設	3
母子生活支援施設（母子寮）	5
乳児院	5
保育所	26
盲ろうあ児施設（難聴幼児通園施設）	1
特別養護老人ホーム	49
養護老人ホーム	10
養護（盲）老人ホーム	3
軽費老人ホーム	4
老人ﾃﾞｲ・ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ	2
救護・更生施設	4
精神障害者小規模作業所	1
特定非営利法人（NPO）	3
その他	9
合計	319

（職種別）

職種区分		研修生（人）
指導員等	生活指導員	105
	職業（作業・訓練）指導員	5
	児童指導員	53
心理判定員		12
理学療法士 PT		29
作業療法士 OT		11
言語聴覚士 ST		5
介護職員		12
保育士		33
医師		14
看護師		7
相談員（カウンセラー）		5
その他	歩行訓練士	2
	精神保健福祉士	1
	点字指導員	7
	栄養士	5
	ケアマネージャー	2
	コミュニティワーカー	4
	ケースワーカー	1
	ソーシャルワーカー	1
	介護支援専門員	3
	他	2
合計		319

(4) 海外研修生 県別人員数（昭和45年～平成30年）

県	人
北海道	5
青森県	2
岩手県	1
宮城県	2
秋田県	2
山形県	1
福島県	
茨城県	1
栃木県	1
群馬県	5
埼玉県	16
千葉県	14
東京都	53
神奈川県	18
新潟県	2
富山県	2
石川県	1
福井県	2
山梨県	2
長野県	1
岐阜県	2
静岡県	3
愛知県	3
三重県	
滋賀県	
京都府	3
大阪府	25
兵庫県	17
奈良県	4
和歌山県	5
鳥取県	2
島根県	3
岡山県	11
広島県	5
山口県	1
徳島県	1
香川県	5
愛媛県	1
高知県	2
福岡県	3
佐賀県	6
長崎県	2
熊本県	2
大分県	5
宮崎県	2
鹿児島県	3
沖縄県	5
計	252

政令市	人
札幌市	6
仙台市	
さいたま市	
千葉市	1
横浜市	1
川崎市	1
相模原市	1
新潟市	
静岡市	
浜松市	
名古屋市	2
京都市	4
大阪市	24
堺市	2
神戸市	9
岡山市	2
広島市	2
北九州市	9
福岡市	3
熊本市	
計	67
合計	**319**